

第2期ロジスティクス環境会議 第1回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2006年6月23日（金） 10:00～12:00

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：19名

IV. 内 容：

- 1) 第1期ロジスティクス環境会議の活動と成果について
- 2) 第2期ロジスティクス環境会議の活動概要について

V. 開 会

開会にあたり、主催者を代表して事務局の徳田専務理事より開会挨拶が行われ、①6月9日の通常総会により会長、副会長含めたJILS役員体制が変更になったこと、②3月15日に開催された第4回本会議にて第1期環境会議の活動のまとめとロジスティクス環境宣言の採択が行われた旨、説明がなされた後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 委員紹介

委員各位による自己紹介が行われた。

VII. 議事

1) 第1期ロジスティクス環境会議の活動と成果について

事務局より、資料1に基づき、説明が行われ、第1期ロジスティクス環境会議の活動と成果について確認がなされた。

2) 第2期ロジスティクス環境会議の活動概要について

事務局より、資料2に基づき、説明が行われ、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

（委員会及び研究会について）

委 員：これまでに開催したWGの中で、①第1期の課題として「参加者の参加意識の違いやレベル差」を第2期にどのようにするか、②環境会議参加企業にどのような成果物が得られるのか、③参加メンバーが具体的にどのような活動を行うのか、といったことを議論し、その解決策として、委員会と研究会という2つの組織を設置することを決めた。

委 員：委員会と研究会の違いが分かりにくい。

委 員：参加の検討をする際に、成果イメージは大変重要だと思うが、改正省エネ法対応委員会の成果イメージが分かりにくいのではないかと思う。

委 員：改正省エネ法対応委員会であれば、例えば、“CO2排出量を簡易に計算できるようなソフトウェア”といった記載の方が分かりやすいのではないかと個人的に思う。

委 員：第1期は物流のグリーン化を推進するための基盤整備を行っており、第2期は第1期の活動を踏まえ、より効率的な環境負荷低減活動の加速が重要だと個人的に考えているが、提案されているこの2つの委員会が適当かどうか疑問である。

委 員：グリーンサプライチェーン推進委員会の説明の中で、「取引条件の見直しで環境負荷を劇的に低減」という記載があるが、取引条件だけで劇的に削減できるか疑問に感じる。

委 員：委員会として、改正省エネ法だけ取り上げるのは、範囲としてはやや狭いのではないかと思

う。

- 委員：製品等の寸法、荷姿、呼び名、情報の桁数、一貫パレチゼーションなど、モノの面での標準化なども大きなテーマになるのではないかと思う。また、その他にも、共同物流、センター共同化、業種・商品別プラットフォーム、社会インフラ、都市内物流など取り上げるべきテーマはたくさんあると考える。
- 委員：メーカーごとに通い箱の種類があり、1つの店舗でも日配品だけで250種類もあった。日本チェーンストア協会やスーパーマーケット協会に通い箱の標準化をすすめようとしているが、環境会議としてもこのような活動にも取り組んだり、情報提供してはどうかと思う。
- 委員：グリーンサプライチェーン推進委員会の活動が取引条件に絞りすぎている印象を持った。発荷主、物流事業者、着荷主の“三位一体”の改善による低減活動という表記にしてはどうか。
- 委員：“三位一体”は、J I L Sの最大の特徴であり、この3者によるグリーンサプライチェーンを推進することはたいへん意義深い活動である。
- 委員：委員会の下に研究会を設置するような形も一案だと考える。
- 委員：委員会及び研究会がどのような活動を行うのかははっきりしていないと、参加者が選定できないと思う。特に、グリーンサプライチェーン推進委員会については、名称だけでは分かりにくいので、取引条件や包装の標準化などのキーワードも記載してはどうかと思う。
- 委員：原案では改正省エネ法は研究会として設置する予定であったが、たいへん関心が高いテーマだと思われることから、前回のWGにて委員会として設置することとした経緯がある。
- 委員：改正省エネ法については、現在のところ、CO2の把握方法よりも改善活動をどのようにするかといったことに関心が高まっていると個人的には思う。
- 委員：研究会という箱を設置し、情報収集や勉強のみを目的とした参加者も受け入れるかどうかご議論いただきたい。
- 委員：第1期終了時に実施したアンケート結果を見ると、「情報交換」の満足度が高く、第2期においても重点を置く必要があると感じている。ただし、箱を作れば良いというわけではなく、ニーズにあった運営や魅力的なテーマが必要だと考える。
- 委員：情報収集を目的とする参加者については、研究会だけではなく、環境会議で実施するシンポジウムなどにも参加できる旨記載する必要がある。
- 委員：改正省エネ法については、業種、会社によって法の捉え方が異なり、何をしたいのかまったく分からない企業もあるので、どのような層のメンバーを参画させるのか、参加メンバーの意に沿った中身にする必要があると考える。
- 委員：グリーンサプライチェーン推進委員会については、取引条件に絞らずに課題を列挙し、第1回の委員会において、具体的に何を上げるか審議する形にしてはどうか。
- 委員：改正省エネ法については、トンキロの把握や算定状況ということではなく、法律等の不備等についての行政への提言活動や、この施策でこれだけ効果があったといったことなどをテーマにすれば、委員会として活動しても問題ないと思う。
- 委員：物流における環境負荷低減について、荷主、物流事業者、着荷主という3つの視点を踏まえて委員会等を設置してはどうかと考える。
- 委員：第1期については、メンバーは必ずどこかの委員会に登録していただいたが、第2期でもこのスタンスを踏襲するのかご議論いただきたい。
- 委員：委員会、研究会両方に登録していただくとなると、それぞれの1回ごとの参加者数は少なくなってしまう恐れがある。
- 委員：WGの議論では、委員会及び研究会に全員ご登録いただくことは考えていない。特に委員会については、事務局から参加をお願いする形になると思う。
- 委員：グランドデザインを踏まえて委員会を3つぐらい設置し、それぞれの委員会の下に研究会を分科会として設けて、その研究会には誰でも参加できる形がいいのではないかと思う。

- 委員：研究会については、メンバーであれば誰でも参加できるという運営方法がよいのではないかと。
- 委員：先ほど委員会を3つぐらい設置してはどうかという意見があったが、第1期の5つの委員会からこの3つの委員会への整理と、グランドデザインとの関連を整理した方が分かりやすいと思う。また、委員会、研究会については、最初から具体的なテーマを出すのではなく、全体的な考え方を記載した上で、どのようなテーマをやるか検討してはどうか。
- 事務局：第1期終了後、全体の活動を俯瞰し、その中で第2期に集中して取り上げるテーマとしてこの2つをあげさせていただいた。とりあえず第2期の活動としては、CO2排出量削減を柱に考えたいが、冒頭にこのようなテーマ選定の経緯の説明が不足していた。
- 委員：テーマを多くあげることはよいが、事務局のマンパワーがそこまで対応できるのか個人的に心配である。設置したものの、活動ができなければ、参加者の不満につながると思う。
- 委員：研究会については、メンバーの事例発表会という位置づけにして、メンバーであれば誰でも参加できる形にしてはどうか。また、幹事を決めておき、事例発表会のテーマ選定や、発表や討議から出てきた課題についての取りまとめ等を行う形で運営してはどうかと思う。
- 事務局：“事例研究会”という方が、参加者にとっても分かりやすいと思う。
- 事務局：本日の整理としては、①委員会については、グランドデザインや第1期との関連を整理した上で3つぐらい設置する、②研究会については事例研究会という名称にして、情報収集を目的とする。また、パンフレットにはテーマ例としていくつか記載することとしたい。
- 委員：委員会テーマは白紙から検討するのか教えていただきたい。
- 事務局：グリーンサプライチェーン推進委員会についてはこのまま残し、その中の検討テーマ案として源流なども記載することになると思う。

(企画概要(案)及び別紙「参加募集のご案内」の記載内容について)

- 委員：参加メンバーを増やしていこうという話があったが、一方で別紙「参加募集のご案内」の中の参加定員が100社となっており、矛盾するのではないかと。
- 委員：資料2の3ページの「企画運営委員会の役割と構成」について、第1期との違いを教えてください。
- 事務局：第1期の企画運営委員会の役割としては“調整機能”ということであったが、第2期はより積極的な役割を果たしていただくべく、③の文言を追記した。
- 委員：資料2の活動内容で、冒頭に委員会、研究会という標記が出ているが、例えば①情報を外に発信する活動、②メンバー内での情報交換と標記した上で、それぞれ委員会、事例研究会という記載をした方がよいと考える。
- 委員：組織図の研究会の位置づけが分かりにくいと思う。整理した上で図示してほしい。
- 委員：「参加募集のご案内」についても、運営サイドに立った書き方がされていると思われる。参加された方が何をやるのか、成果物として何が持ち帰れるのかといったことがわかるような記載をする必要があると思う。
- 委員：委員会、事例研究会の参加方法についての記載も必要ではないか。
- 委員：本会議用の資料と募集パンフレットではまとめ方がまったく異なると思うので、それを意識して作成していただきたい。
- 委員：資料2の3ページの企画運営委員会の構成は、「業界を代表する企業」ではなく「当会会員企業」の方が適切だと思う。
- 委員：パンフレットの記載は慎重にしていきたい。特に、委員会等のテーマについては“三位一体”が大きな特徴であるので、それがわかる記載にしていきたい。また、情報交換や他業種企業との人脈形成といった環境会議のメリットも強調すべきではないかと思う。
- 委員：「参加募集のご案内」の最後に添付されている登録票は、内容を理解している人でないと分かり難いと思う。また、環境会議に参加してどのような情報収集をしたいのかといったことも、

登録票に記載していただいているかどうかと思う。

委員：事例研究会以外にも、シンポジウムの開催や、CGLニュースやCGLジャーナルの発行などの活動についても、記載していただきたい。

事務局：ご指摘をふまえて修正する。

(メンバーのCO₂排出量の把握等について)

委員：改正省エネ法の義務対象の有無に係らず、「環境会議メンバーについては、CO₂排出量を自主的に削減していこう」といった目標設定及び活動があってもいいのではないかと個人的に思う。

委員：環境会議に参加して、CO₂がこれだけ削減できたということ把握し、対外的にアピールできるようにすべきではないか。メンバー間で、「CO₂排出量をこれだけ削減する」といったような共通認識があると、環境会議の活動全体が盛り上がると思う。

委員：前回のWGで議論となったが、メンバー企業には、参加する時点でのCO₂排出量を出してもらい、1年後、2年後どうなったかということ対外的にアピールしていけばいいのではないかと。CO₂排出量削減を環境会議のタスクとして行ってもいいのではないかと。

委員：CO₂排出量の報告及び削減量を強制してはいけないと思うが、メンバーに問いかけてみて賛同が多ければ実施してもいいのではと思う。

(アウトプットについて)

委員：第1期についても、各委員会の委員長はアウトプットを出さなければいけないというプレッシャーを感じていたと思う。

委員：第2期の活動期間は1年半しかなく、第2期としてどのような成果を出すかといったことはより重要だと考える。

事務局：第1回WGの中で、着実に成果を出せることを短い期間で実施してはどうかというご意見をいただき、本日もご提示した案を作成した経緯がある。

委員：本会議前のアウトプットの取りまとめにはたいへん苦労した。したがって、委員会はアウトプットが必要になると思うが、事例研究会については、特にアウトプットを出さなくてもいいのではないかと。

(今後のスケジュール)

委員：パンフレット発送後、第1期参加メンバーを中心に、電話等による個別に営業活動などを行ってほしい。

委員：今後のスケジュールについて教えていただきたい。

事務局：8月2日に第1回本会議を開催する。それに向けて、7月7日の第2回企画運営委員会にて、本会議の運営等をご議論いただきたい。

委員：パンフレット案等の審議は行わないのか教えていただきたい。

事務局：日程の問題もあり、事務局で作成することとしたい。

委員：パンフレットの文案はたいへん重要であるため、必要に応じて、メンバーに確認をとっていただきたい。

(その他)

委員：経団連や物流連は第1期のオブザーバーではなかったのか。

事務局：グリーン物流パートナーシップ会議のメンバー及びオブザーバーではあるが、環境会議には参画いただいていたいなかった。

委員：環境会議として、外部への提言活動と裾野を広げる啓発活動のどちらのスタンスで活動を行

うか教えていただきたい。

事務局：委員会で提言活動、事例研究会で啓発活動という整理をしている。ただし、参加メンバーの割合で考えると、提言活動3割、啓発活動7割ぐらいではないかと思う。

委員：現場では改正省エネ法対応が出てくるため、それにあったタイミングでのシンポジウムの開催や、逆に取りまとめの時期は環境会議の活動を控えていただくなど、日程には配慮していただきたい。

【決定事項】

- ・委員会については、グランドデザインや第1期との関連を整理した上で2～3つぐらい設置する。
- ・参加者の情報収集を目的とした研究会については事例研究会という名称にする。
- ・企画概要（案）及びパンフレットについては、本日の議論を受けて事務局で修正する。

3) 次回スケジュールについて

7月7日（金）15時～17時、JILS会議室にて第2回企画運営委員会を行う。

VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以上